

2025年7月29日（日）

大津絵人形「鬼の念仏」の調査結果

目的

公民館利用者団体運営委員会より、利団倉庫に保管されていた表題大津絵人形の作者（所有者）や倉庫保管されていた理由、いきさつ、時期等の調査を依頼され、大津絵同好会が4月から聞き取りを重点に調査した結果をご報告いたします。

1、調査対象者について

公民館活動にかかわりのあった関係者（旧公民館を含む）を中心にこれらの活動にかかわりのあった方達、十数名に聞き取り調査を実施し、下記の情報が得られました。

2、作者（所有者）について

結論は、作者（所有者）不明でした。

だれが作成されたかは、調査結果として、誰からも得ることができませんでした。したがって、所有者は不明のままで、利団か、公民館か保管管理されていたであろうと思われます。

3、作成時期について

これも不明です。ただし、旧公民館関係者（職員）からは見たことがない旨の回答をえました。また、かなりの方が現公民館（2F廊下等）で見たとの回答を得ております。したがって現公民館で十数年前からあったことは確かであると推測できます。

4、作品の保管状況について、

大津絵同好会は会員中心に現物確認を実施しました。作品調査を行うにあたり、会員から厄払いの依頼があり、天孫神社の官司に祈祷をお願いしました。（玉串料：一万円）

作品調査で顔、手、足、髪等の造形部分に破損、抜け、色あせ等の部分があり、修復する必要はあります。また着物（法衣）類には綻びが有り、使用するのであれば修復が必要です。持物の和傘（本物）、鐘（本物）、奉加帳（作り物）、は実物品もあり、貴重な品のように思われました。ただし、数十年間、何もされていない状態であり、かなりの汚れが目立ち、洗い等が必要と考えます。

5, 作品の価値について

大津絵（絵画）は伝統工芸としてそれなりの価値はあると見ていますが、この人形は昔からある人形ではなく、伝統的な価値はないと思われます。
したがって、大津市が価値ある品とし維持する理由は無いように思われます。ただし、これが将来的に何かに使う目的があり、維持管理する理由が見つかれば、関わってくるように思いますが、今のところ考えられません。

6, 将来的な使用と維持管理について

大津絵同好会では、興味はありますが、維持管理する費用は捻出できません。利団、公民館では、これからの文化祭やイベント等で使用するアイデア等があれば現状維持し、保管できると思いますが、いかがでしょうか。

7, まとめ

今までの聞き取り調査から推測できるのは、公民館、または市民会館等で行われるいろいろな行事イベントで、使用されるものがいくつも作られます。利団倉庫にあることから、利団、公民館の何かの行事でこの大津絵人形が作られ、使用されたのではと考えます。

今までの公民館職員から聞いた話ですが、このようなイベント行事で作られたものはその行事が終われば、処理されるのが普通だそうです。

今回、このように長く保管維持されていた理由は、確かによくできた大津絵人形で、処分するにはもったいないと考えられた結果、誰も処理する結論が出せず、今まで保管されていたのではと思われます。

これが私共、大津絵同好会の調査結果です。

今でもこれからのイベントで使用できる機会があれば使いたい思いはありますが、維持費等を考えると誰かが決断しなければと思います。

利団が維持管理していた現実からみて、利団で結論を出すのが妥当だと考えます。 よろしくお願いします。

大津絵同好会 会長 山下正昭